

### ● 2019年7月の「FOREIN AFFAIRS REPORT」が「同盟国の衰退と新パートナーの模索」の論考を掲載

外交・国際政治関係の雑誌として権威があるとされる表記雑誌に、保守党系シンクタンク「アメリカンエンタプライズ研究所」の外交研究家「ニコラス・エバースタット」氏が「人口動態と未来の地政学—同盟国の衰退と新パートナーの模索」を投稿している。6月末のG20開催前後の時期に、トランプ大統領から日米安保の在り方について、一石を投じる発言がなされたことはよく知られているところであるが、今回の本論文の骨子は「人口動態上の大きな衰退途上にある日本とヨーロッパ。ここからどのような地政学上の未来が導き出せるだろうか。・・・ヨーロッパと東アジアにおけるアメリカの同盟国は、今後10年で自国の防衛コストを負担する意思も能力も失っていくだろう。一方、アメリカの同盟国やパートナーになるポテンシャルとポジティブな人口トレンドを持つ、インドネシア、フィリピン、そしてインドが台頭しつつある。国際秩序の未来が、若く、成長する途上世界における民主国家の立場に左右されることを認識し、ワシントンはグローバル戦略を見直す必要がある」というものである。トランプ大統領の問題提起と一脈通じるアメリカの外交研究家の発言として注目に値しよう。